

令和5年度一般選抜（A日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしています。小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としています。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験にて提示される問題文は、Allen, Robert C., (2011), *Global Economic History*, Oxford University Press. より、イギリスで産業革命がはじまる直前の時代のヨーロッパでみられた中世からの経済社会的変化を扱った記述の一部である。

（意図）

問1の1)については、表1に基づき、都市、田舎の非農業、田舎の農業の各カテゴリー別の人口構成の2時点を比較した変化について、ベルギー、ポーランド、イタリアを除くすべての国に共通する変化として、都市と田舎の非農業の割合がともに増加し、田舎の農業の割合が減少していることを、指定された字数内で記述することを求めている。

問1の2)については、問いで示された内容を正しく理解し、計算することができる学力を問うものである。すなわち、

イギリスについては、

都市の人口割合の変化率	228.6%増
田舎の非農業の人口割合の変化率	77.8%増
田舎の農業の人口割合の変化率	39.2%減

オランダについては、

都市の人口割合の変化率	20.0%増
田舎の非農業の人口割合の変化率	57.1%増
田舎の農業の人口割合の変化率	25.0%減

であり、変化率の絶対値が一番大きいのはイギリスの都市の人口の割合、一番小

さいのはオランダの都市の人口の割合が正解となる。

問2の1)については、図1に示されたロンドンのエネルギー価格指数の値が100.0、ニューカッスルの値が12.5であるので、ロンドンがニューカッスルより8倍高いという計算になる。こうした差が生まれる要因として、図1の注2と本文の関連する記述から、炭鉱からの距離がニューカッスルの方が近く、ロンドンは離れていて船で輸送する必要があるため、運搬にかかる交通費(輸送費)がかさむことを指摘することを求めている。

問2の2)については、本文の関連部分の記述の論理を理解し、都市の人口の割合が増えると都市における燃料への需要が高まり、従来使われていたエネルギー価格が上昇し、新しいより安価なエネルギー源を開発し、そちらに転換するメカニズムが働くことを、指定された字数内で記述することを求めている。

問3については、都市の人口の割合の高さが一国内の商業や工業の発展の度合いを示す指標であるという問題の仮定と本文での「識字率の上昇は、高賃金と商業経済の進展によるものであった。商業と工業の拡大は、教育の経済的価値を高め、その結果教育への需要を増大させた。」という記述を合わせて考えることにより、都市の人口の割合も識字率も一国内の商業や工業の発展という同じ要因の影響を受けることを指摘し、この共通の要因が国毎の都市の人口の割合と識字率の値の高低の順番に反映されている可能性について指定された字数内で論述することを求めている。

(参考)

問1の1) 解答例

1500年の時点と1750年の時点と比較すると、ベルギー、ポーランド、イタリアを除く国は共通して、都市の人口の割合と田舎の非農業の人口の割合がともに増加し、田舎の農業の人口の割合が減少している。(97字)

なお、下線部が抜けていても正解とする。

問2の2) 解答例

都市の人口の割合が増えると、都市における燃料への需要が高まり、従来使われていた木炭や薪などのエネルギー価格が上昇し、泥炭や石炭など新しいより安価なエネルギー源を開発し、そちらに転換するメカニズムが働く。(101字)

なお、下線部が抜けていても正解とする。

問3 解答例

都市の人口の割合の高さは、仮定から一国内の商業や工業の発展の度合いを示す指標である。一方、本文では、識字率の上昇は、高賃金と商業経済の進展によるものであり、商業と工業の拡大は、教育の経済的価値を高め、その結果教育への需要を増大させると指摘している。ここから、都市の人口の割合も識字率も一国内の商業や工業の発展にしたがって高まるということが考えられる。そうだとすれば、国毎の都市の人口の割合と識字率の値の高低の順番が同じになることも理解できる。(220字)

なお、下線部が抜けていても正解とする。